

作るから管理まで「全体最適」で

佐藤 学校しか人材供給源はありませんからね。特に地元の工業高校などは常日ごろ接触しておくべきです。

向井 昭和50年代から上

場企業のゼネコンが工業高

校から人材を採用しなくな

りました。親御さんから見

れば、名の通った一流企業

に入ってもらいたいのに、

それができないのが現実で

す。私が若いころは工業高

校卒の現場所長が何人もい

ました。ゼネコンも工業高

校の優秀な生徒を採用すれ

ばいいと思います。それが

できれば、より優秀で意欲

のある学生が工業高校を目

指すというサイクルができ

き、ひいては業界全体の底

上げになると思います。

佐藤 ところで、ベトナム

の技能実習生の教育訓練

事業はいかがですか。

向井 現在、7期生の教

育訓練中で、ベトナム政府

からも高い評価をいただい

ています。新しい形の政府

開発援助(ODA)として、

一人でも多くの親日家が育

つことに貢献したいと思っ

ています。

佐藤 企業戦略としてだ

けでなく、国家戦略として

取り組むべきです。製造業

も含めてわが国の産業界が

同じ認識になれば、ものす

ごい力になります。歩みが

遅くても着実にやっていく

べきです。

◇ この対談シリーズ企画

「建設再興～人・未来・創

造」は随時掲載します。

元国土交通事務次官の佐藤直良氏が建設関係各分野のトップを訪問し、建設産業のさまざまな課題について語り合う対談シリーズ企画「建設再興～人・未来・創造」を始めます。第1回は向井建設の向井敏雄会長と、専門工事業の視点で生産性の向上や技能者教育などについて意見を交わしました。

佐藤 国土交通省で官房

技術審議官在任中(06年7

月～08年7月)にICT

(情報通信技術)の活用を

打ち出した時、真っ先に関

心を持ってくれたのが向井

さんでした。BIM(ビル

ディングインフォーメーショ

ンモデリング)やCIM

(コンストラクションイン

フォーメーションモデリン

グ)がまだ一般的でなかつ

た時代なのに、真っ先に反

応された向井さんには先見

の明があったと思っていま

す。

向井 当社では1997

年(ころ)「3次元シミュレ

ーション」を構築しました。

設計図書、積算、構造計算

を一元化したシステムで、

その後、大臣表彰を受けて

います。工程管理に役立っ

ていまして、現在では工事

に遅れが出ないようになり

ました。さらに、今年10月

の運用開始を目指してスマ

ートシステムを開発中で

す。全社員や職長にタブレ

ット端末を持たせ、必要な

技術情報をいつでも取り出

せるようにします。施工図

を見ながら仕事ができるわ

けですから、生産性が向上

すると期待しています。現

場の生産性を高め、自分た

ちで収入を上げる努力をす

べきだと考えています。

佐藤 建設現場では今、

向井建設代表取締役会長

敏雄氏



人手不足が深刻な問題にな
っています。特に若い人が
集まらなくなっているのは
大きな問題です。

向井 人は、やりたい仕
事ができる時に最もモチベ
ーションが上がります。努
力する目標を若い人を持っ
てもらったことが最も大切で
す。若い人が夢や希望を持
って仕事をし、技能を高め
るにより高い処遇を受
けられるようになれば、若
者にも魅力ある業界になる
と思います。若い人が続か

者がよく話し合うべきで
す。その上で、作ることから
管理までを一貫通貫で見て
いく時代です。部分最適で
なく「全体最適」、これが
キーワードです。

向井 役所、ゼネコンと
も技術者が減ってきてい
て、現場管理まで専門工事
業者にお任せというケース
があります。ところが、そ
れができる専門工事業者は
少ないのが現実です。

佐藤 それができるよう
になれば専門工事業の社会
的地位も向上し、元請のゼ
ネコンとも、より良い関係
が築けます。ところで、安
全管理までしっかりできる
会社はどれくらいあるのだ
しょうか。

向井 安全についてはま
だまだ不十分です。やって
いるつもりですが、現場の
第一線にまでは伝わってい
ないと思います。現場の第
一線の職員の意識まで変え
なければ、労働災害はな
くなりません。品質管理につ
いても同じことがいえるこ
と思います。

佐藤 国内での技能者の
育成拠点に富士教育訓練セ
ンター(静岡県富士宮市)
がありますが、会社の中で
新規入職者はどう研修して
いますか。

向井 当社はもともと認
定職業訓練校の資格を持っ



ていました。2カ月くらい
新人研修をしてから現場に
配属します。その後もいろ
いろな教育を受けて資格が
取れるような仕組みを設け
ています。「PTA制度」
といって、先輩社員がマン
ツーマンで徹底的に仕事を
教え込みます。5～6年す
れば、それなりの戦力にな
ります。

工業高校生の積極採用を

30年くらい前に多
能工の育成に取り組んでみ
ましたが、結果的には育て
きれませんでした。すべての
職種について、素人の域
を脱しきれなかったのだ
です。型枠と足場など、関連
した職種について覚えさせ
た方が身に付くと感じま
す。新入社員を入れると生
産性が下がるので、新人を
教育したくない傾向が業
界にはあります。教育訓練
校で2年くらいしっかり教
育すれば、すぐ戦力になる
ので、それから現場に従事
させるのが理想です。先日、
工業高校へ求人に行きまし
たが、地域の専門工事業者
から求人票が出ていません
でした。採用が実現するま
で数年かかるかもしれません
が、地元の工業高校に求
人票を出すべきです。

この対談シリーズ企画
「建設再興～人・未来・創
造」は随時掲載します。